



総合学習体験活動

9月19日(火)は、総合的な学習の時間の一環として、各学年において、体験活動を実施しました。各学年の活動の様子や内容、生徒の感想等をお知らせします。

〔2年生〕ファイナンスパーク(経済学習)

2年生は、平の文化センター脇にある「エリム」にて、与えられた自分の収入をもとに1ヶ月の必要な支出計算をし、生活の仕方を考える経済学習を行いました。

生徒が座席に着くと、そこには右のようなカードがおかれています。そこに書かれた年収や子どもの数など家族構成の条件を考慮し、必要な支出項目や金額を考え、生活の仕方を考えていく学習です。(ちなみに、右は実際に生徒に割り当たったもので、上のカードは年収に最も余裕がある家庭、下は年収が最も厳しい家庭の想定です。)

各家庭には、様々な支出があります。生徒たちも与えられた条件に沿って、住宅、車、電化製品、保険等を選び、また、必要な経費(電気代・ガス代・水道代・電話代・外食費・医療費・冠婚葬祭費・貯金等)を支出した上で、毎月の収入額以内に収めるようにしました。

収入が多いからといって部屋数の多い家に住むと、それに伴って家電製品も増え、電気代等の光熱費も高くなります。いい車に乗ろうとするとその分の支出をどこかで削らなければならなくなります。それらの兼ね合い・バランスをどうするかを与えられた条件をもとに考えなければなりません。

◇ 生徒の感想 ◇

- 自分は今回のファイナンスパークの体験学習で、社会人としての責任とコミュニケーションの大切さに気づいた。1人では分からないところでも、すぐに先生に頼らず周りの友達やボランティアの方々に聞くことで、コミュニケーション力を高められた。成人し社会に出れば、友達にも頼ってられないので、将来のためにも今からできることを精一杯がんばりたいと思った。1ヶ月の生活に関わる費用を考えてやりくりするのは特に難しかったが、最後にはお金も残して終わったのが、ものすごく達成感があって嬉しかった。成人しても今回学んだことを生かして、家族ができたときは、家族みんなを養えるような大人になりたい。(高橋佳祐)
- 僕は体験学習を通して、お金について学びました。限りあるお金をバランスよく分けようとする、家族の分で増えた出費をどこかで削らなければいけないので、とても苦しかったです。食費と旅行費は収入が低くても必ず種類を選ばなければいけないので、2つの計算が難しかったが、上手く調整し、分けることができました。活動の途中、5つの株を所有したので確認したところ、中間値や終値のどちらも全ての株の株価が下がらなかったため、資産を減らさずにお金を増やすことができたのでよかったです。しかし、最後にアンラッキーカードを引いてしまって残念でした。今回学んだ生活設計の仕方は、将来の生活に活かしていきたいと思いました。(安田大翔)

今回のファイナンスパーク研修に際し、12名の保護者の方にボランティアとしてご協力いただき、生徒の活動支援に当たっていただきました。ありがとうございました。

FINANCE Park 個人情報カード

アカウント番号 = 326	ピン番号 = 8965	年齢 = 44才
結婚 = はい	子どもの年齢 = 13才と11才	

年間総収入 = ¥	7,839,600
税金の月額合計 = ¥	133,900
月額年金保険料 = ¥	30,100
月額健康保険料 = ¥	7,000



FINANCE Park 個人情報カード

アカウント番号 = 116	ピン番号 = 4118	年齢 = 27才
結婚 = はい	子どもの年齢 = 3才	

年間総収入 = ¥	2,269,200
税金の月額合計 = ¥	19,500
月額年金保険料 = ¥	9,300
月額健康保険料 = ¥	2,300



〔 3 年 生 〕 企 業 の 魅 力 体 験 プ ロ ジ ェ ク ト

3年生は、地元の製造業に関する企業訪問のため、クレハ、エリエールという国内でも有名な2社をクラスごとに訪問しました。企業理念、製造しているもの、その原材料についての詳しい説明を聞くとともに、工場見学や原料に触れたり、おむつの吸水実験などを行ったりしました。また、クレラップやおむつ以外にも、食品の包装フィルムや医薬品も製造されていることを知り、生徒たちは目を輝かせて活動していました。ものづくりに対して興味・関心を高め、有意義な1日を過ごすことができました。



◇ 生徒の感想 ◇

- 3年生は、株式会社クレハいわき事業所さんにお世話になりました。会社の動画を見させてもらい、商品作りや薬の開発をしていることが分かりました。その後商品紹介がありました。僕はクレラップ以外の商品が知らなかったため、今回の企業見学で知ることができ、よかったです。最後にバスでクレハの施設を紹介していただきました。とても広い敷地で驚きました。クレラップに使う工業塩を実際に触れてみました。粒が大きくザラザラしていました。おみやげにいただいたので、クレラップの7割に使われている塩を家族にみせたいと思います。今日の企業見学を今後の進路選択に役立てていきたいです。今回、素晴らしい機会を与えてくださったことに感謝しています。ありがとうございました。(太田大翔)
- 私は、エリエールプロダクト株式会社の企業見学で、身近な製品にも多くの人が関わっていることが分かりました。「少しでも製品を使う人が笑顔になれるように」という思いから製品の開発や製造に取り組んでいると聞いて、普段から使っている製品を作ってくれてとてもありがたいと感じました。また、SDGsにも取り組んでいて、材料のロスを極力減らすようにしていてすごいと思いました。企業見学を通して、ものづくりに興味を持つことができたので、また機会があれば話を聞かせていただきたいと思いました。(大森はるひ)

〔 1 年 生 〕 ア ク ア マ リ ン ふ く し ま



1学年は「職業調べ」の一環で、アクアマリンふくしまに校外学習に行きました。はじめにマリンシアターで「飼育員のお仕事」というテーマで、飼育員の永山さんに仕事の内容や働くことへの思いを伺ったあと、「水族館を支える人たち」という視点で、班別で館内を見学しました。館内見学を午前中で終了し、学校へ戻り、午後からは学んだことを新聞形式にまとめました。水族館を通して「働くこと」を考えさせられた1日となりました。

◇ 生徒の感想 ◇

- 私たち1年生は「水族館を支える人たち」というテーマで、アクアマリンふくしまに校外学習に行きました。館内を見学していると、「潮目の海」の水槽をローラーで磨いている人、トドに餌をあげている飼育員さん、「サンゴの海」で岩についているコケをチューブで吸い取っている人やエレベータのボタンを消毒している人など……。さらには、イベントで絵を描いている人もいました。普段とは違った目的で見学すると、新しい発見があって新鮮でした。アクアマリンふくしまでは約50人の職員の方々が自分の役割を果たしながら、お客さんのために楽しいアクアマリンを作ってくれているのだと分かりました。(小島遥瑠)
- 中学校に入学して初めての校外学習の場は、アクアマリンふくしまでした。これまで「水族館を支える人たち」という視点でアクアマリンに行ったことはありませんでしたが、今回の校外学習を通して学んだことがたくさんありました。福島県といえばアクアマリンという印象がありますが、ここまで有名になった裏側にはたくさんの苦勞があるのだと思いました。飼育員さんの仕事の内容は調餌、給餌、清掃、採集、調査などがありました。働くうえで一番大切なことは、生き物が好きなことだそうです。水族館はアクアマリンに限らず、生き物だけ見られがちですが、「人の力」がすごく関わっています。皆さんも今度水族館に行くときは、生き物だけではなく飼育員さんに目を向けてみてはどうでしょうか。(宮内瞳青)